

# がんばろう 南三陸町 復興第61号

# 南三陸マイタウン情報

発行所  
千葉総合印刷株式会社  
本吉郡南三陸町志津川字沼田 150-84  
TEL(46) 3069 FAX(46)3068  
志津川広報センター  
企画・編集 千葉伸孝

## 荒砥地区で七回忌法要



山陰地区の浄土真宗「楽法会」

2月22日午前10時から、鳥取・島根の浄土真宗本願寺派山陰教区青年僧侶の会「楽法会」による七回忌が営まれた。

会場となった荒砥「全慶寺」の集会所には楽法会の総勢15名の僧侶の皆さんと、荒砥地区民22名が集まり、七回忌の節目の法要に参加した。

はじめに「楽法会」の石橋代表が「荒砥地区にお世話になった方々のご縁がありました。精一杯お勤めをします」と語った。全慶寺役員の高橋さんは「光陰矢の如し」と6年目を振り返った。「心のいやしにはまだなっていないが、災害はいつでも来る」と常々の防災の意識を持った事が大切と話した。「忘れる事無く後世にも伝えて行くための、未来への幕明けを祈ります。」と述べた。毎年荒砥地区に「楽法会」が来町し津波で亡くなられた方がたを供養している。



七人が演奏する雅楽の音色で「七回忌法要」が始まった。5名の僧侶の読経に参列した地区民が一緒に祈り「阿弥陀教」を唱える。

津波から難を逃れた全慶寺の集会所の高台から、荒砥漁港・地区に「な・む・あ・み・だ・ぶー」の読経が響き渡った。

## 志津川荒砥地区と南三陸町の津波の歴史

荒砥地区は志津川の北部に位置した、入江の漁村で海岸部と斜面に住宅が点在する集落だった。荒砥地区には114世帯で439人が住み、地区の21.2haが浸水地域となり、3・11の津波では16.6mの大波が地区を襲った。

南三陸町において明治以降に発生した大規模津波は、1896年の明治三陸津波がありM8.5で5.5mの津波で1,240名が死亡した。1933年の昭和三陸津波では87名、1960年のチリ地震津波は5.4mの津波で41名の死者がでていた。荒砥5.4mと平磯5.6mの津波を規準として町には5.4mの「防潮堤」が建設された。

2014年の東日本大震災ではM9.0で、最高波高は志津川林の23.9mと報告された。23年8月時点では3,301戸の住宅被害と695名の死者数となっている。2015年の3・11の報道では死者566人と、合計で778人の尊い人命が失われている。



荒砥漁港のワカメボイル

## 歌津「鎮魂の森」七回忌法要



1月31日午後2時より南三陸町歌津「鎮魂の森」で東日本大震災の七回忌法要が営まれた。主催したのは歌津地区でボランティア活動が続ける、「歌津支援プロジェクト」で、京都の知恩寺から浄土真宗の僧侶4人が、現地で読経をあげ犠牲者の冥福を祈った。

会場の鎮魂の森には慰霊碑を囲み100名を超える家族と関係者が集まった。代表の挨拶では「最後になるかも知れません。」と、集まった皆さんに向け語りかけた。読経の後で一人ひとりが白い菊を献花し、全員が焼香をした。その行列は長い列となり、津波で亡くなった家族に想いを馳せていた。

眼下の伊里前市街地は、かさ上げと道路・河川堤防や、歌津商店街の整備が進んでいる。今年4月には「伊里前福幸商店街」の町開きを予定している。賑やかだった歌津地区の再生はまだまだ時間が掛かりそうだ。伊里前川に架かる「うたちん橋」の解体も決まり、古き良き旧歌津町伊里前の名所が消え、新しく伊里前地区が観光地として生まれ変わる。

## 歌津地区の津波の歴史

歌津伊里前地区は81.5haが津波で浸水した。413世帯があり1,253人が暮らしていた伊里前商店街があり、「しろうお祭り」「田東山つつじ祭り」などのイベントが開催され賑わっていた。明治三陸津波では歌津地区民799人、昭和津波86人、チリ津波0人、東日本大震災では119人が亡くなった。歌津地区は港で23.4m、伊里前では16.4mながら死者が少なかった事は、旧歌津町の地域防災が実を結んだ事による。南三陸町で歌津地区の津波の死者の割合は「15.2%」にあたる。



## キラリと輝く志高生!

## 先生・家族・後輩に感謝

東日本大震災から6年目を迎えようとする3月1日、志津川高校の卒業生83名(男子42名・女子41名)が、思い出多き学び舎を巣立った。平成28年度の卒業証書授与式では、情報ビジネス科第19回生の22人を代表して、佐藤大輔君が第672号の証書を授与され、普通科第69回生61名を代表して、4組の阿部菜月さんが、第9244号となり、今年度までに9265名の卒業生を、無事に送り出すことができ、1万名の卒業生をめざし今後の隆盛を願いたい。

山内校長の式辞では、野球部・陸上部・郷土芸能愛好会など、全国的にも高い評価を受け、苦難

## 証書授与式



の道を地域の皆さんと共に歩んできた。「感謝の心を親に伝えて欲しい。」「南三陸町は世界に誇れる防災都市建設へと突き進んでいる。」境遇を選ぶ事は出来ないが、生き方を学ぶ事ができる。助け合いながら希望に満ちた人生を生きるのが、「志津川高校魂」と結んだ。震災直後からの生徒の希望だった、「志津川高校前停留所」が3月から設置される事も、伝えられた。(次号に続く)

2月から東地区の災害公営住宅にも配布をはじめました。町の移り変わりをご覧ください。

## ラムサール条約説明会資料から

(前号からのつづき)

- ・ラムサール条約登録のメリット  
地域資源がラムサール条約の自然環境に支えられ、特産物(ラムサールブランド)として発信する事も可能となります。国内初のASC認証産品やFSC認証材などと、効果的に連動される事により、好環境が生まれ、それぞれの認知度向上・付加価値向上が期待される。
- ・ラムサール条約登録のデメリット  
自然環境を保護する為、開発等に際し新たな規制を得る可能性があります。ラムサール条約登録を機に、国内外からの交流人口が大幅に増加する可能性があり、多くの人が集まることにより、野生動物の生息や貴重植物の生息に悪影響が出ることも考えられます。

## 南三陸町人口の推移

(平成28年2月現在)

	南三陸町	志津川	歌津	戸倉	入谷
22年3月	17,815	8,294	5,181	2,433	1,907
23年3月	17,064	7,823	5,061	2,296	1,884
24年3月	15,352	6,733	4,771	1,997	1,851
25年3月	15,066	6,572	4,704	1,922	1,868
26年9月	14,276	5,943	4,575	1,757	2,001
27年5月	13,990	5,711	4,545	1,693	2,041
28年12月	13,529	5,383	4,503	1,573	2,068
前年5月からの増減	-461	-328	-72	-120	+27
(27.5~28.12)減少率	3.3%	4.6%	1.6%	7.1%	103.3%

(昨年の自然増減は出生が62人で死亡が171人とマイナス103人となった。死亡数は一昨年前とは変わらないが、出生は18人増加した。)

## 2017年の小中学校入学見込み数

(平成29年2月1日現在)

学校名	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校数
志津川	20	27	30	38	44	42	201
戸倉	13	10	9	7	16	13	68
入谷	6	11	13	15	15	9	69
伊里前	30	19	16	25	18	22	130
名足	6	9	11	8	8	15	57
合計	75	76	79	93	101	101	525

学校名	1年	2年	3年	全校数
志津川	67	84	70	221
歌津	36	32	36	104
合計	103	116	106	325

入学児童は昨年と同じながら、最も多いのは伊里前小学校の30人で、これまで最多だった志津川小が20人となった。入谷小・名足小は共に6名の入学生となった。

# 未来への教訓

復興！ 大津波の記憶を風化させない

平成28年(2016年)  
～ 地元報道より ～

## 12月の出来事

### 南三陸町

志津川湾水系の川サケ漁が不振で、八幡川水戸辺川のサケは11月29日現在では604匹で昨年の6割にとどまっている。放流1千万匹の目標に対し、360万粒で移入を加えても4千万粒と4割となっている。その状況から「海産親魚」の捕獲をする。沿岸業者の協力で網上げを11月19日～23日に行ったが、23日の河川の捕獲は72匹と網上げ前の2倍ながら、例年の4分の1と減少している。

◆第16次復興交付金が南三陸町では前回の9倍に当たる約14億円が申告どおり配分される。被災地復興の土地区画事業に約8億円。津波復興拠点事業として、志津川中央区への公共用地整備で、生涯学習センターや学校給食センターの建設地の整備などに約6億円をあてる。

◆12月1日より南三陸町の気仙沼薬剤師会を事業主体とする、薬局窓口の「まちかど相談」がスタートする。健康や介護、医療分野を含め一体的に受けつける。

南三陸商工会の青年部が福島県郡山市で開催の主張発表全国大会で「最優秀賞」に輝いた。未利用食材を活用した商品化や、ものづくりに対する部員が連携するという「ものづくりリレー事業」の提案が高く評価された。青年部(山内大輔部長)は、三陸沿岸代表として6月の県大会、8月の東北大会をもとに優勝し、全国大会に出場した。同部会の水産会社役員及び川善弥さん(35)が発表した。

◆南三陸町の「郷土芸能発表会」があり、入谷打囃子・行山流水戸辺鹿子躍など5団体、約90人が出演し、日頃の練習の成果を披露した。

◆5日志津川袖浜漁港に接岸していた、漁船の漁獲物などを引き揚げるクレーン用ケーブル約2mが燃えた。南三陸消防署が出動し鎮火を確認した。

南三陸町と気仙沼市の復興の進捗と問題を比較して見れます。

## 12月の出来事

### 気仙沼市

◇気仙沼市いじめ問題対策連絡協議会が1日開催され、気仙沼市内の小中学校内の報告がなされた。冷やかしの、からかい、悪口など、いじめの認知は51件だった。

◇南気仙沼・鹿折の内湾の土地区画事業で市議会震災調査特別委員会では、市が見直しによる遅れを明らかにした。最長で2年の遅れの判明は、事業所・住宅再建に影響がでそうだ。

◇気仙沼市場のサンマ水揚げは2日現在で数量が1万3266トンで金額は23億3393億円で、昨年より数量で1500トン上回るが、金額は4800万円下回った。

気仙沼市は慰霊碑建立に補助金制度を創設。地域の団体に石碑代として一部を助成する。

◇南三陸教育事務所は、気仙沼市・南三陸町の地域出身の教員が少なくなり、管内の小中学校に10年程度勤務する地域採用枠を新設する。県内では初の取り組みで、管内での教員の定着を目指す。

気仙沼市のふるさと納税の返礼金がリニューアルで好評だ。11月末で3916件・7940万円で、前年比で件数では69.1%金額で87.8%上昇している。返礼金は以前の60種から3倍の200種となり、秋からの泊宿クーポンも新しく新設した。6割は首都圏からの「ふるさと納税」となっている。

◇気仙沼市唐桑の「唐桑ごっつおフェア&商

南三陸町職員のボーナスが支給された。231人に約1億4850万円となる。平均は43.77歳で64万円、佐藤町長は153万円だった。特別職は副町長117万円・教育長102万円。星議長は56万9250円、議員は47万580円だった。

◆南三陸町は2018年の志津川湾の「ラムサール条約・登録」を目指し、18日に戸倉公民館を会場にシンポジウムを開催し、住民に理解を求める。

◆エコチル調査の気仙沼市・南三陸町地域調査運営協議会と実務担当者の合同会議で「妊娠期DVが全国の3倍」と報告された。県内で東北大学が調査にあたり、気仙沼市・南三陸町では約630組の親子が登録している。

◆南三陸町の志津川地区が「交通死亡事故ゼロ1500日」を達成した。

南三陸町の庁舎建設現場見学会開催に県内外の自治体職員170人が参加した。環境保全に配慮した地元材を使った。森林管理協議会(FSC)の認証取得のPRをした。南三陸町本庁舎は地上3階建てで、南三陸産材スギ材とコンクリート造りで延べ床面積は3773㎡。建設費は約20億円で、歌津総合支所は7億6100万円。29年8月中旬に完成し、9月上旬に併用を開始する。

◆南三陸町はマイナンバーカードを利用した住民票の写しや印鑑証明などのコンビニ交付を20日からサービスを実施した。町の事務手続きの不足により3カ月遅れのスタートだった。

◆18日のラムサール条約の戸倉公民館での説明会には、町民80人が参加した。その席上で住民の賛同が得られたとして、2年後(2018年)の登録を目指す佐藤町長が宣言した。

◆志津川地区の国道45号中央団地向かいに、ウジエスーパーや薬王堂・ホームセンターなどの複合施設が29年の夏には建設となる。震災前に志津川地区で営業をしていたウジエスーパーが再建され、買い物ができる環境の整備に、町民の待ちにまったスーパー建設となる。

◆南三陸町の「県立志津川高校」の生徒たちが町へ「町民バス」を寄贈した。震災前から実施した「モアイ化計画」(モアイで町起こし)が実

工祭」で唐桑の味覚(カキ)を堪能した。4日の開催は天候にも恵まれ、焼きカキには長蛇の列ができ、賑わった。

気仙沼市議会一般質問での、JR大船渡線での気仙沼駅から仙台駅までの直通列車導入の件について、菅原市長は車両の確保が難しく、定期運行は困難と回答があった(JRから)。今後も要望を続けていく方針を示した。

◇気仙沼地区海難遺児を励ます会の「歳末街頭募金」が市内4カ所で行われた。「海難遺児に温かいお正月を」と毎年行われている。

◇気仙沼市本吉町の小泉川のサケ漁が過去20年で、最低水準の不漁となっている。漁獲量は前同期の7割にとどまっている。原因として環境の変化と降雨の減少の影響とみられている。

気仙沼市神山の吉田酒店の店主吉田喜市さん(82)が、「ヨシダビル」を平屋で再建し、南気仙沼に飲食店を中心にした集中商店施設を整備する。敷地は3700㎡で、飲食店26店をテナントとして建てるほか、事務所・コンビニも併設し、14台の駐車場も確保する。来年3月からテナントを募集する。吉田さんは被災前は南気仙沼駅前であり、「クリスタル・ビレッジ・ヨシダ」として地区民に親しまれていた。

◇気仙沼大島の唯一の医療機関の「大島医院」が、山本馨医師(71)が来春で退職し無医地区となる。山本医師は10年で区切りを迎える。無医地区の危機の対応に菅原市長は後任確保に全力で当たると話す。大島架橋完成まであと2年、大島の住民に不安が募る。

◇気仙沼鹿折加工組合は農林中央金庫の支援を受け、輸出へのノウハウを身につけ海外進出へ。

を結んだ。小さな収益金を積み立て約820万円のバス購入の、益金650万円が充てられた。

◆南三陸町の5つの小学校に、常陽銀行仙台支店は仙台で上下水道施工業を営む日幸商會が発行する「私募債手数料」の一部を、スポーツ用品や教育機器などを寄贈した。

◆県内全域でノロウイルスの検出により25日までカキの出荷休止。

南三陸町歌津に架かる「ウタちゃんはし」が今年度中に撤去される。県が発注する河川堤防工事は28年3月に完成する予定で、海拔8.7mの高さで整備される。

◆南三陸町歌津の伊里前福幸商店街の「歌津あわびまつり」が開催され「あっ」という間に完売した。地元の新鮮なあわびの価格は当日の発表で、開催日に1キロ(4～6個入り)が8千円で販売された。23日の開催を天皇誕生日としたのは、東日本大震災で被災地を初めて訪れたのが、歌津だったからだ。

◆23日東北楽天ゴールデンイーグルスの嶋・松井選手が南三陸町の小中のスポーツ少年団の野球教室を開催し、約80人が集まった。

◆南三陸町の「さんさん商店街」は5年間の仮設期限を迎え、25日からの「最終セール」でにぎわった。

◆南三陸町第1回「図書館を使った調べる学習コンクール」の審査会がまとまった。小学校低学年の部では、優秀賞一工藤光奈乃(入谷1年)、中学年の部最優秀賞一「調べてみた!天気と気温の変わり方!」菅原優花(入谷4年)、高学年の部一最優秀賞「気管支ぜんそくとアレルギーについて」阿部葵(入谷5年)、中学生の部一最優秀賞「記憶を確かなものにするためには」千賀彩子(志津川2年)。出品は5小学校から55点、2中学校から22点の応募があった。

南三陸町の防災集団移転事業が志津川中央地区のブロック52区画が完成し、全135区画の工事を終えた。町内の27団地に827区画の整備を6年で終了となった。

◆南三陸町入谷小学校の仮設の解体が始まった。町内の学校敷地内では初めてで、29年2月末までに完了し、3月末までには同校に返還され、4月から校庭として使用できる。

まずはシンガポールを拠点に組合員で力を合せ海外展開できる事を目標にする。

気仙沼市新浜町で店舗の再建をした「すがとよ酒店」の店主菅原文子さん(67)が、犠牲者の霊を慰めるとともに地区の復興を願う「地藏堂」を店舗前に建立した。鎮魂と早期復興を願い、16日に開眼供養をおこなった。

◇気仙沼市議会は熊谷(雅)氏の視察での遅刻・飲酒疑惑で倫理審査会設置の動きをみせている。同議員は2014年の飲酒運転疑惑で辞職勧告を10月に受けている。

気仙沼市内のローソン田谷店と店員が、架空請求による「特殊詐欺被害」を未然に防ぎ、気仙沼署から感謝状が贈られた。市内の60代男性が電子マネー2万5千円を5枚購入(12万5千円)の申し出を不審に思い、店長と相談し男性に詐欺であると説明した。この判断で被害を未然に防いだ。

◇気仙沼市本吉町内の山林50haを活用し、東京の企業による「メガソーラー」の建設が計画されている。全国で太陽発電を手がけ、2019年からの稼働を計画する。年間発電量は5千世帯以上で約2400万Kwを想定する。

気仙沼市の震災遺構の旧向洋高校は、市民の見学会の反応などを受け「全体保存」への検討を開始した。これにより整備・維持費は増額の見通しとなる。整備費を2億3600万円と試算し、北校舎も保存となると9千万円増額となり、維持管理費も年間約630万円から200万円が増額となる。

◇気仙沼魚市場の水揚げ実績は、200億円には一歩届かなかったが、5年連続で県内一位となった。